

M&A専門誌

Mergers & Acquisitions
Research Report

MARR マール

2008 July 7月号

発行人 高橋 豊
Yutaka Takahashi

編集長 川端 久雄
Hisao Kawabata

制作進行 加藤 順子
Junko Kato

表紙写真 十文字 美信
Bishin Jumonji

アート
ディレクション 石崎 路浩
Michihiro Ishizaki

デザイン 斎藤 圭太
Keita Saito

本文写真 福本 敏雄
Toshio Fukumoto

印刷 三松堂印刷株式会社

発売元：株式会社レコフ
株式会社レコフデータ

発行所：株式会社レコフデータ

〒102-0083 東京都千代田区麹町4-1-1

麹町ダイヤモンドビル

TEL.03-3221-4942

2008年7月1日発行 通巻165号

雑誌18321-07

定価2,310円 本体2,200円

RECOF

編集室から

BOOK

『グローバル資本主義と巨大企業合併』

奥村皓一著

日本経済評論社

3800円(本体)



M&Aが巨大化し、業種や国境の壁を越える。グローバル資本主義の下、世界中がM&Aのルツボと化した。投資銀行やファンドも含めM&Aの実像をつかみ、学問的に分析するのは困難を極めるが、本書は事実を克明に整理し、理論的枠組を提示してくれる。

著者によると、今のM&Aブームは、米国で1992年に始まった。冷戦終結をうけ、クリントン大統領が軍事力から経済力による米国の覇権確立に舵を切り替えたことの影響が大きい。米国株式会社の体力を強化するためM&Aを国家戦略とする。シナリオを書くのは、ウォール街の投資銀行だ。主要産業が2社程度の勝ち組みに再編される寡占体制が究極の目的で、米国では航空宇宙軍需で2社寡占、金融で3大メガバンク体制、石油資本でエクソン・モービルとシェブロン・テキサコの2大スーパーメジャーが確立した。しかし、国内再編だけではグローバル市場で主導権をとることは難しく、M&Aは国境を越えていく。

米国の動きはEUに波及する。M&Aでグローバル企業を目指さないと、利潤追求がでなくなるからだ。労働者との関係を重視してきた独企業もアングロサクソン型への変革を迫られる。ダイムラー・ベンツによる米クライスラー合併のようにグローバルM&Aに挑戦するところもある。逆にマンネスマンのように英ボーダフォンから敵対的買収されるところもある。失敗や脅威をものともせず、欧州企業はM&Aを活発化させている。さらにその波はロシア、中国などBRICsをも巻き込み、とどまるところを知らない。

この文脈に沿い、15年間に起こった欧米のM&Aの事例が詳細に語られている。20世紀最大の金融合併となったシティコープとトラベラーズの合併、ロックフェラーとモルガンの金融統合で誕生したJ.P.モルガン・チェース、規制緩和と揺れ戻しの中でAT&Tを軸に起きた通信・メディア産業の20年に及ぶ再編の歴史、国際石油資本が6つのグループに統合し新秩序ができるまでのドラマ、欧州を舞台にしたミタルによるアルセロールの敵対的買収の動きなどが多彩に紹介されている。普段、海外のM&Aの動きは、新聞などで断片的にしか追えないだけに、事実関係の整理に大変役立つ。

理論面では、今次の史上最大のM&Aブームを、新自由主義にもとづく世界産業再編と分析する。新自由主義の原理は競争信仰と市場経済化の拡大であり、米国がリーダーシップをとる。グローバル化、情報化、金融主導が特徴となる。特に金融面では買収ファンドが重みを増しているという。しかし、製造業が衰退段階にある米国が金融権力を動員してグローバル規模で行う産業再編は、成長のための投資を犠牲にして遂行され、新たな雇用も生み出さないと、悲観的にとらえている。ライバル企業を飲み込むのが最大の防衛とばかり株式を使ってグローバルM&Aに邁進する姿を「バベルの塔シンドローム」とたとえる。グローバル再編を著者の理論的枠組みで見直してみることも有益だろう。(青)

編集後記

洞爺湖サミットが近づいた。地球温暖化がテーマになる。10年以上も前になるが、新聞記者としてこの問題を追いかけた。被害が及ぶのは、遠い将来世代の話とされ、どう書けば若い世代に関心をもってもらえるか苦心した。そんな時、あるアメリカインディアンは重要なことを決める際には次の7世代に及ぼす影響を考えるという話にぶつかった。私には子、孫、曾孫、玄孫までしか思い浮かばない。本当なのか。いくら調べても、裏づけとなる文献は分らず、曖昧にしか紹介できず、悔しさが残っていた。今の仕事に移り、たまたまある本を読んでいてイロコイ族であると分かった時は本当にうれしかった。その後の温暖化の進展具合は、当時、予想していた以上に速い。ハリケーンの大規模化など現代世代にキバをむいている。「冷戦」から「暖戦」への論評もあった。その昔、啓蒙報道にない知恵をふり絞った身には複雑な思いである。(開)

本誌の記事およびデータの著作権は原則として株式会社レコフデータに帰属します。いかなる目的であれ当社に無断で本誌記事の複製、引用、転載等を行うことを禁じます。また、本誌記事の情報は、当社が信頼できると考える各方面から取得しておりますが、その内容の正確性、完全性が保証されているものではありません。当社は本誌記事に起因して被った損害については、その内容如何にかかわらず一切の責任を負いません。乱丁・落丁の場合はお取り替えいたします。03-3221-4942までご連絡ください。